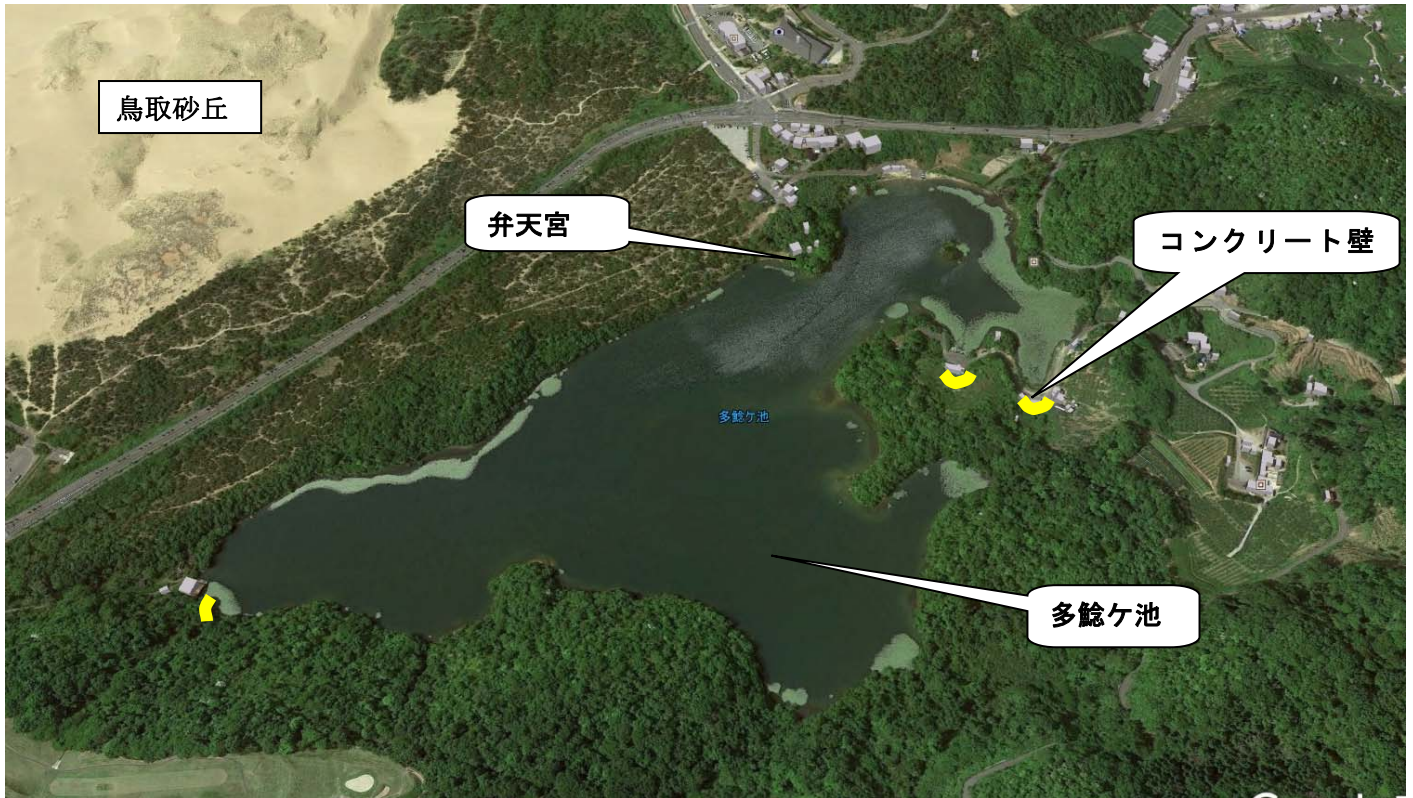


# 多鯨ヶ池と弁天宮

縄文時代 弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代 明治時代 大正・明治・昭和時代

## 多鯨ヶ池の特長と弁天宮の歴史と伝説



### 多鯨ヶ池の特長

#### 池の成り立ち・地理

約10万年前頃に、背後の丘陵前面の浸食谷\*<sup>1</sup>に古砂丘\*<sup>2</sup>が発達、その上を約5万年前の大山火山の活動で噴出した軽石\*<sup>3</sup>が覆って、水が浸透しなくなり山地と砂丘地の凹地が古砂丘によって堰き止められてできた、堰き止め型の池。

現在では山陰最古の堰止湖ということになっている。

池には流出入河川はなく雪解け水、雨水、鳥取砂丘にしみ込んだ水の湧水などで蓄えられた水のみである。

#### \* 1 浸食谷 古砂丘

山の谷間が水・風雪などの侵食作用によりつくられた谷。


#### \* 2 古砂丘

おもに縄文前期から後期にかけて（6500～3000年前）形成された砂丘

#### \* 3 軽石

火山碎屑物の一種で、塊状で多孔質のものうち淡色のもの。

黒っぽく多孔質のものはスコリアという。

池の概要	池の名前	多鯰ヶ池 * 昔は多弥池・種ヶ池とも呼ばれていたこともある * 鯰が多く生息していたためこの名前が付けられたとの説がある 現在は外来種の「ブラックバス」「ブルーギル」が繁殖して鯰は姿を極端に減らした
	面積	24.8ha * 東京ドーム4.7ha・・・約5倍の面積
	周囲	3.4Km
	水深	15m（夏場） 17m（冬場） * 中国地方最深
	海拔	18m（夏場） 20m（冬場）
	透明度	3.4m * 鳥取の名水指定
	自然湖岸率	99%以上 * 湖岸の太線部分のみコンクリート・石垣
	生物	エビ類・コイ・フナ・ワカサギ・ナマズ・ドジョウ・カラス貝・ブラックバス・ブルーギル・水クラゲ
水生植物	スイレン（未草 ヒツジグサ）	
池の特長	水深	池としては中国地方で最深である。平均16m ●なぜ池と呼ぶのか？ 「湖」ではとの質問も多くある。 明治時代制定「地所名称区別項目」によれば・・・ ・ 広くて深いのは「湖」 ・ 浅くて泥を蓄えているのは「沼」 ・ 人工的に作られたのは「池」 この制定に従えば「湖」がはてはまると思われるが、江戸時代までは地元の人たちの呼称がそのまま使われたようです。
	透明度	昔は5m程度あったと言われていましたが現在は3m程度です。 ●昭和60年に「とっとり（因伯）の名水」ふれあいの水辺に選定された。 全28点が選定。（天の真名井、布勢の清水、千代川、雨滝）
	自然湖岸率	99%以上 ●近年何処でもコンクリートや石垣で湖岸を整備していますが「多鯰ヶ池」は砂や土などの自然湖岸が99%以上守られています。 石垣やコンクリート湖岸は黄色で示した部分だけです。 ◎鳥取大学 永松教授調査資料
	景観	 <p>●背後の山、池、砂丘、その前に日本海と僅か3Kmの範囲に起伏に富んだ風景。</p>

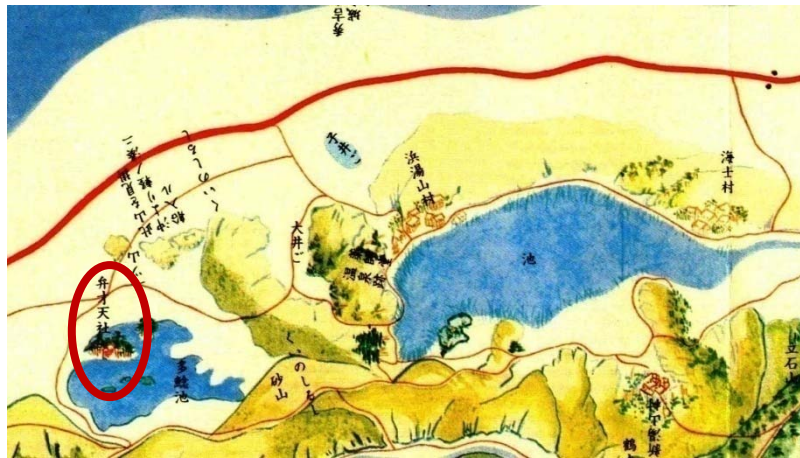
<p>景観</p>	<p>堰止湖 安定した水位</p>	<p>流出入河川はないにも関わらず濁水のない池で雨水、雪解け水、砂丘の浸み込み水からの湧水で安定した水位を保ってる。 極端に増えた水はある水位以上で砂に浸み込み流れ込んでいると言われている。</p>
<p>静かな湖面</p>	<p>年間を通じても5cm以上の波が立たない。 池は周囲の山や砂丘に囲まれて「すり鉢状」のため風が吹き抜けない。</p>	
<p>地域の暮らしを支えた池</p>	<p>池は農業用水として利用している「ため池」で唯一の排水路は、江戸時代後期に人の手で掘られた地下水路のみで、この池から東側1kmの水田を潤している。</p>	
<p>スイレンの群生</p>	<p>多鯰ヶ池には6月～11月にかけて湖岸に群生する「スイレン」が白い花を咲かせて訪れた人を喜ばせている。スイレンは別名「ヒツジグサ」と呼ばれ、未の刻（午後2時）頃に花を咲かせることから、ヒツジグサと名付けられたと言われるが、実際は朝から夕方まで花を咲かせる。</p> 	
<p>池の濁水期に姿を現す島</p>	<p>池の濁水期に現れる2つの島 昔は鵜島と呼んだ、現在は「磯の御前島」 昔は<small>こぜしま</small>警女島と呼んだ、現在は沖の御前島</p> 	

## 弁天宮

池を守る水神さん  
(弁天宮)

### 弁天宮建立時期

正確な建立時期は不明であるが、江戸時代・寛文年間（1661年～1673年）に書かれた「鳥取城下古絵図」に弁財天社と明記されており、地元の言い伝えによれば江戸時代初期には<sup>ほこら</sup>祠がすでにあったようである。



### 弁天宮の衰退時期を経て賑わいを戻した

建立された当初から、この場所は靈験あらたかで参拝者が絶えることがなかったが、その内人気がなく寂しい状態になった。

明治初年（1868年）～明治30年（1897年）の間は地元の氏神（神功皇后の寄港伝説で応神天皇がご祭神）<sup>やなが</sup>弥長神社に<sup>まつ</sup>祀られた。

昭和6年に地元住民5名が私財を投じて元の場所に境内を拡張、祠を建てて現在に至る。

その頃弁天宮へのお参りは「船を使う必要もなく歩いて渡れる状態に」随分と楽になり、その後鳥取市内の商売人、近隣の温泉の芸者さんなど、商売と芸能に関係する方々の参拝で賑わった。

また理由は不明であるが近隣の漁師さんが安全祈願へお参りしたことも記録に残っている。

戦前には戦地に行った息子の無事帰還を願う親が、素焼きの皿に名前を書いて池に投じて祈願することもあったと地元の長老の話である。

戦後は鳥取砂丘も観光地として徐々に観光客も増え、砂丘に通じる道路の途中に位置する弁天宮周辺には、お茶屋さんが3軒、宿泊施設が3軒建ち並びかなり賑わった時期である。

その後、昭和40年に鳥取市内から砂丘トンネルを通じて、直接鳥取砂丘への国道9号線が開通してからは、観光地の中心が北側へ移り、弁天宮周辺は徐々に客足が衰えた。

## 多鯰ヶ池の伝説

江戸時代後期にこの池を利用した干拓事業（詳しくは湯山池と細川池の干拓事業を参照）の後、昭和9年に相州\*<sup>4</sup>江之島弁財天から分霊\*<sup>5</sup>を受け、多鯰ヶ池のほとりの鎮守の森にお種弁天として安置する。

先人の戒め・・・農業に欠かせない唯一の水資源を疎かにしないための神様であったのだろう。

弁天宮のあるこの鎮守の森は、現在は陸地とつながっているが、元は多鯰ヶ池の中に浮かぶ島の一つで直径が100mほどの「大島」と呼ばれていた。

\* 4 相州 神奈川県相模国の別名

\* 5 分霊 ある神社の祭神の霊を分けて、他の神社にまつこと。

### 古記録にある大島の変遷

年代	大島の様子	文献
江戸時代・寛政7年 1796年	多鯰ヶ池に4島あり（大島 小島、鵜島 <sup>うしま</sup> 、警女島 <sup>こぜしま</sup> ）	因幡誌
江戸時代・天保10年 ～嘉永2年 1839～1849年	孤立した大島、岸から投石しても届かず	天然記念物調査報告書 （昭和4年）に基づく
明治初期	大島はまだ池の中	田中新次郎著「めぐる史跡」中の地図
明治12年～22年 1879～1889年	橋を渡して弁財天へ参る	天然記念物調査報告書 （昭和4年）に基づく
明治30年 1897年	大日本帝国陸地測量部地図には陸続きで表現	
明治35年	当時住民は着物を尻からげして渡る	福部村史

### 「お種伝説」

昔々、国府町長者さんの元に新しい使用人としてお種という女性がやってきました。夕方、使用人たちで集まり話していると誰かが「腹減った」「うまいもん食いたなー」と言うと決まってお種さんが甘い柿の実を持ってきてくれます。

最初はうまいうまいと言っていたのだが、そのようなことが何度かあると「柿、出過ぎじゃね？」と疑う者も出てきます。そこである時、お種さんをつけてみることにしました。

するとお種さんは池の岸辺で白蛇に変身し、池の島へと渡るとその柿をもいでいたのです。

驚いてそれを長者に報告すると、それ以降、お種さんが戻ることなく多鯰ヶ池の主となったそう。

そして、長者の家に住んでいた老婆がそれを哀れみ池の傍に荒神さんの社（現在のお種社を建てて祀ったそうです）。

その社は「お種社」として弁天宮とは別に祭られています。

柿

を取ったとされる島は池の中程にある「小島」でお種社は大島の小島を望む場所にある。

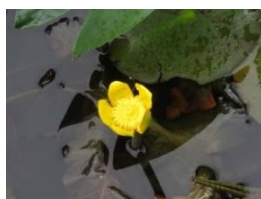


### 「くぐり池伝説」

兵庫県新温泉町多子の「字池の上」という所に、「くぐり池」と言う三畝ほどの池がある。この池は鳥取県の「多鯰ヶ池」につづいていて、「くぐり池」につけていた洗い物やひょうたんがいつの間にかなくなり失った物が「多鯰ヶ池」で見つかることで不思議がられていた。その「くぐり池」の近くに住む娘がいて、あるときそこを通りがかったお坊さんを一目見て好きになり、お坊さんも娘を心憎からず思った。けれども、お坊さんは修業の身、とても娘と一緒になれず、娘はそれを苦しんで池に身を投げた。ところが、お坊さんも池に身を投げた。村人は二人を哀れんで池の端の道にお地藏さんを祀って供養した。「くぐり池」には、春になると、アヤマや、でべそ花(こうほね)という黄色い美しい花が咲く。大雨が降っても、晴れた日が続いても池の水の高さは変わらず、<sup>てらぎ</sup>照来(兵庫県美方郡にあった地域名)の七不思議の一つに数えられている。



照木に残る「くぐり池伝説」の地は、現在水田の一角の沼地である



すいれん科の花で「<sup>こうほね</sup>河骨(土地ではでべそ花と呼ぶ)」